# 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】

| | |
|---|---|
| 1．事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリ |
| 2．体験した事例の名称 | 二酸化炭素消火剤が充満している可能性のある立体駐車場に、呼吸器装着せずに進入 |
| 3．体験した事例の中心的要素 | 現場待機を命じられていた消防士１名が呼吸器を装着せずに立体駐車場に進入たものである |
| 4．体験した事例の原因・理由 | 管理者・警察が進入済であるため、二酸化炭素は放射されていないという思い込み |

## 【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|---|---|
| 1．体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。 |

## 【体験した事例について】

| | |
|---|---|
| 1．発生日時 | 平成　20 年 1 月 27 日　　午前　0 時頃 |
| 2．発生した当時の天候 | 晴 |
| 3．発生した活動現場 | 屋内：二酸化炭素消化剤散布されている可能性のある立体駐車場 |
| 4．体験した事例の種類 | 回答者が、自分自身で負傷した。 |
| 5．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 死亡していた（させていた）だろう。 |
| 6．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか） | その他：二酸化炭素消火剤を吸引する |
| 7．事例体験時の活動 | その他：　[　] |
| 8．（7の活動中）どのような作業中に発生したか | その他：ベルの鳴動　調査 |
| 9．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した。 |

１０．事例体験者の属性（回答者は当事者Ａ）

| | |
|---|---|
| ○当事者Ａ | 年齢[ 28 ]歳、 勤続年数[ 2 ]年、 現場経験年数[ 2 ] 年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ 隊員 ] |
| ○当事者Ｂ | 年齢[ 45 ]歳、 勤続年数[ 22 ]年、 現場経験年数[ 15 ]年、 階級[ 消防司令 ]、<br>同様の活動 [ 数年に１度程度 ]、 任務 [ 複数隊の隊長 ] |
| ○当事者Ｃ | 年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、<br>同様の活動 [ ]、 任務 [ ] |
| その他<br>（当事者が４人以上の場合） | |

１１．事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|---|---|---|---|
| 経過１ | B | 指令課に連絡のため、A に現場待機を命じた | |
| 経過２ | 警察 | 立体駐車場内に要救助者を発見 | |
| 経過３ | 警察 | A に要救助者を確認するよう依頼 | |
| 経過４ | A | B に報告せずに、屋内進入 | |
| 経過５ | A | 要救助者確認 | |
| 経過６ | B | 屋内進入、状況確認 | |
| 経過７ | | | |
| 経過８ | | | |
| 経過９ | | | |
| 経過 10 | | | |

## 【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
　ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

| |
|---|
| たまたま、事故にならなかった。 |

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

| | |
|---|---|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

ｂ．注意力が欠如していた

| | |
|---|---|
| ・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c．経験・知識が不足していた。

| | |
|---|---|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | はい |

d．心身の不調があった

| | |
|---|---|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

〇装備・資機材について

e．資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---|---|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

〇活動環境について

f．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---|---|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g．行動しにくい環境だった。

| | |
|---|---|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h．足場が悪かった。

| | |
|---|---|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

〇指揮・管理について

i．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|---|---|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|---|---|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

〇その他

l．その他の理由があった。

| |
|---|
| いいえ |

【事故発生後の取り組みについて】 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

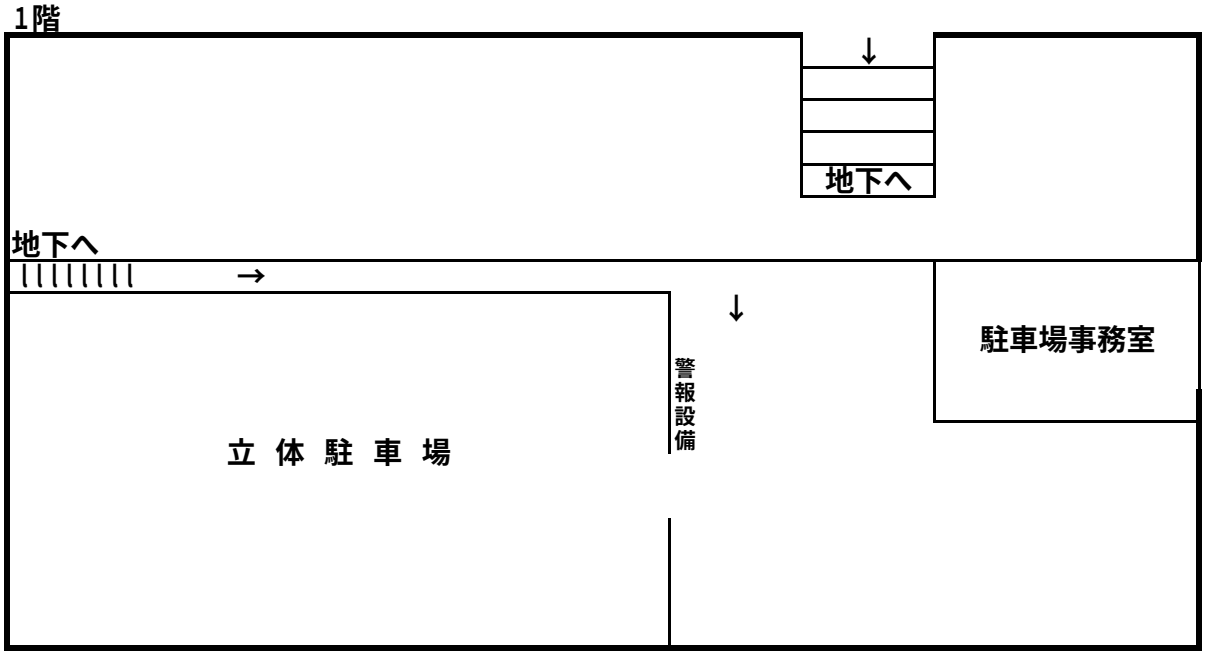
〇注意力欠如、焦り等の対策について

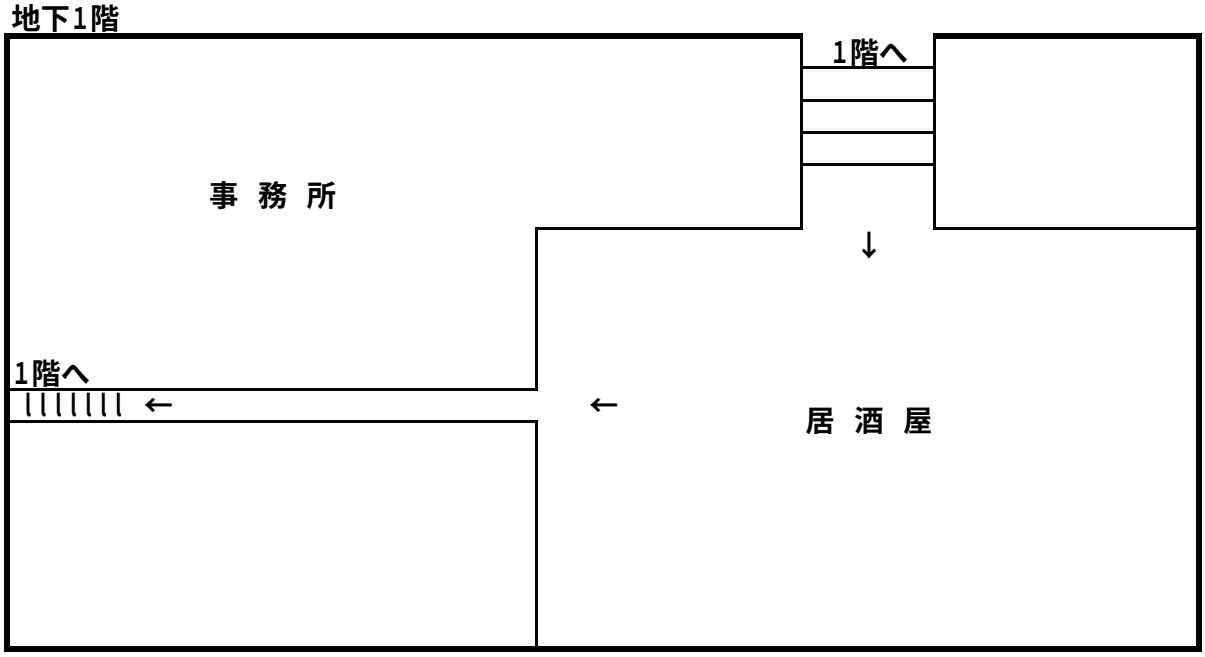
〇装備・資機材の対策について

〇活動環境の対策について

〇指揮・情報伝達の対策について

呼吸器ヒヤリハット　　ここから進入

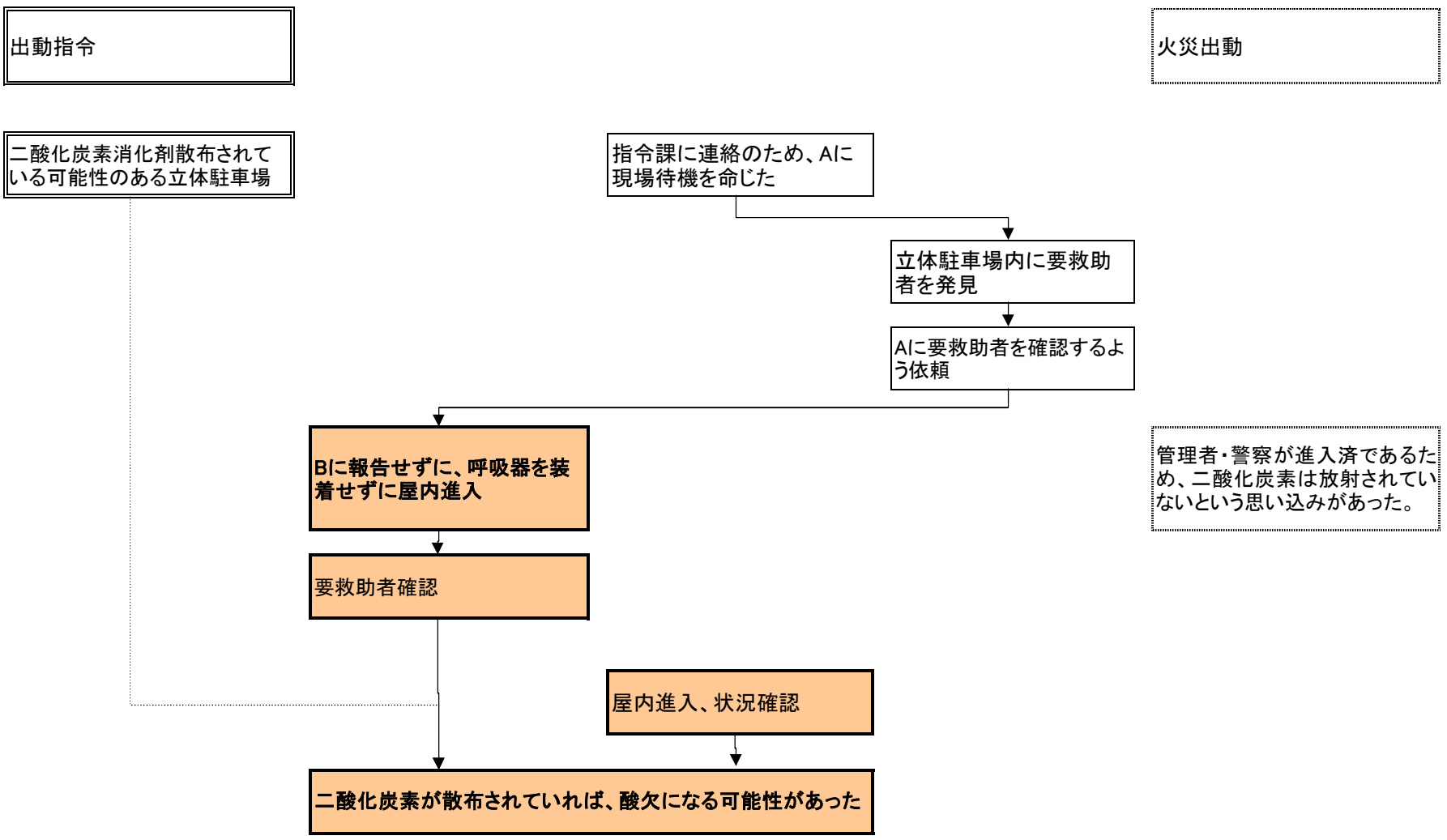


〇ヒヤリハット事例：二酸化炭素消火剤が充満している可能性のある立体駐車場に、呼吸器装着せずに進入　（08H0047）
（同様の体験は、初めて体験した。）

・発生日時　：平成20年1月27日　午前0時頃

| 経過 | 現場の状況 | 隊員A | 隊員B(複数隊の隊長) | 警察 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 隊員／消防士<br>・年齢 28 歳<br>・勤続 2 年<br>・現場 2 年<br>・同様の活動：初めて | 複数隊の隊長／消防司令<br>・年齢 45 歳<br>・勤続 22 年<br>・現場 15 年<br>・同様の活動：数年に1度程度 | | |




◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

〇直接的な原因：行動の意志決定に問題があった。
・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

（心理・体調について）
・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
・活動に対する経験が不足していた。